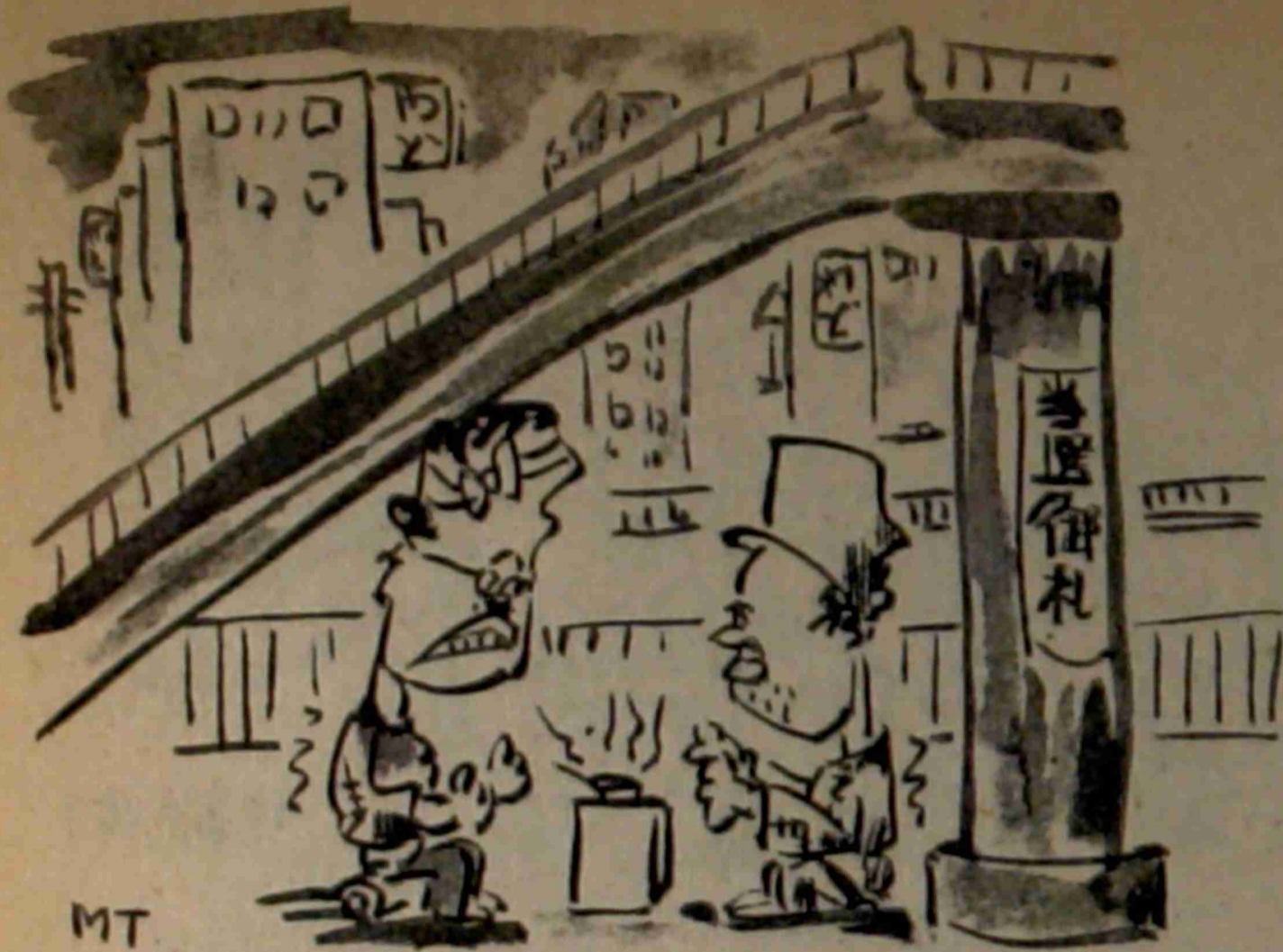


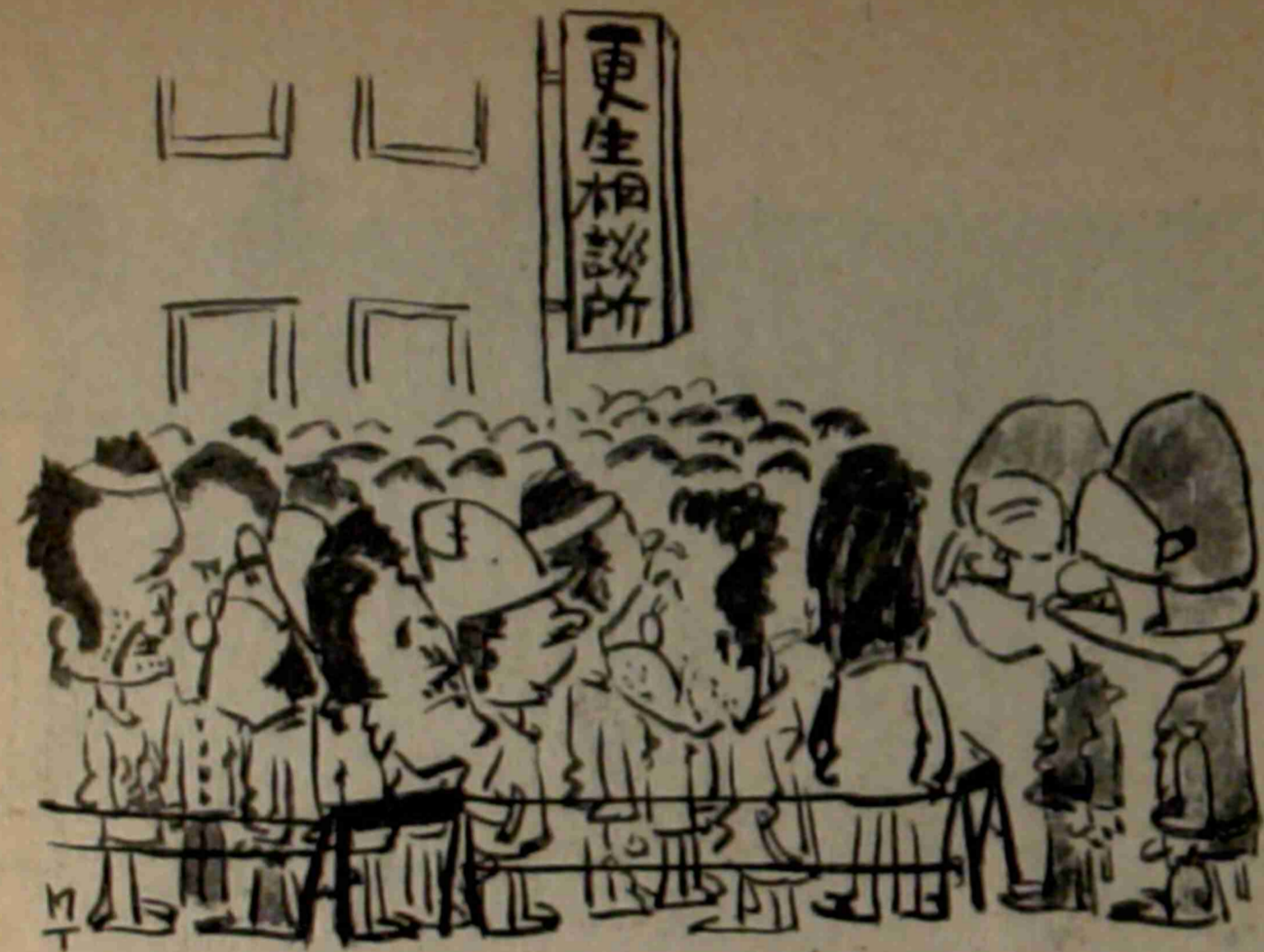
昭和十八年末の寒波——十二月三十一日の夜



泳げる者は泳げ 沈む者は沈め(シラー)

ふらり瓢箪

わしが初めて通天閣を見たときは工事
中のためか、上の方はシートでかこって
あった。昭和三一年発行の日本交通公社
の本によると、ジャンジャン横丁は林芙
美子の「めし」で一躍有名になったが、
一〇〇円あればたらふく食って遊べると
いう庶民の世界として知られている。戦
争中に取り払われた通天閣は地元民の手
で建設中で近く新しい姿でおめみえする
とある。その頃わしは釜ヶ崎を知らな
かった。どこの会社へ勤めても水鏡させず
高知—大阪間を何度も往復していた。何
のためか天王寺駅にきたことがある。駅
は木造で古く駅前には地下鉄工事でもして
いたか鉄板ばかり敷いてあった。天王寺
駅から今の市大病院前を歩きしばらくす



昭和51年12月29日



南津中 12月28日 4,000円の仕事。

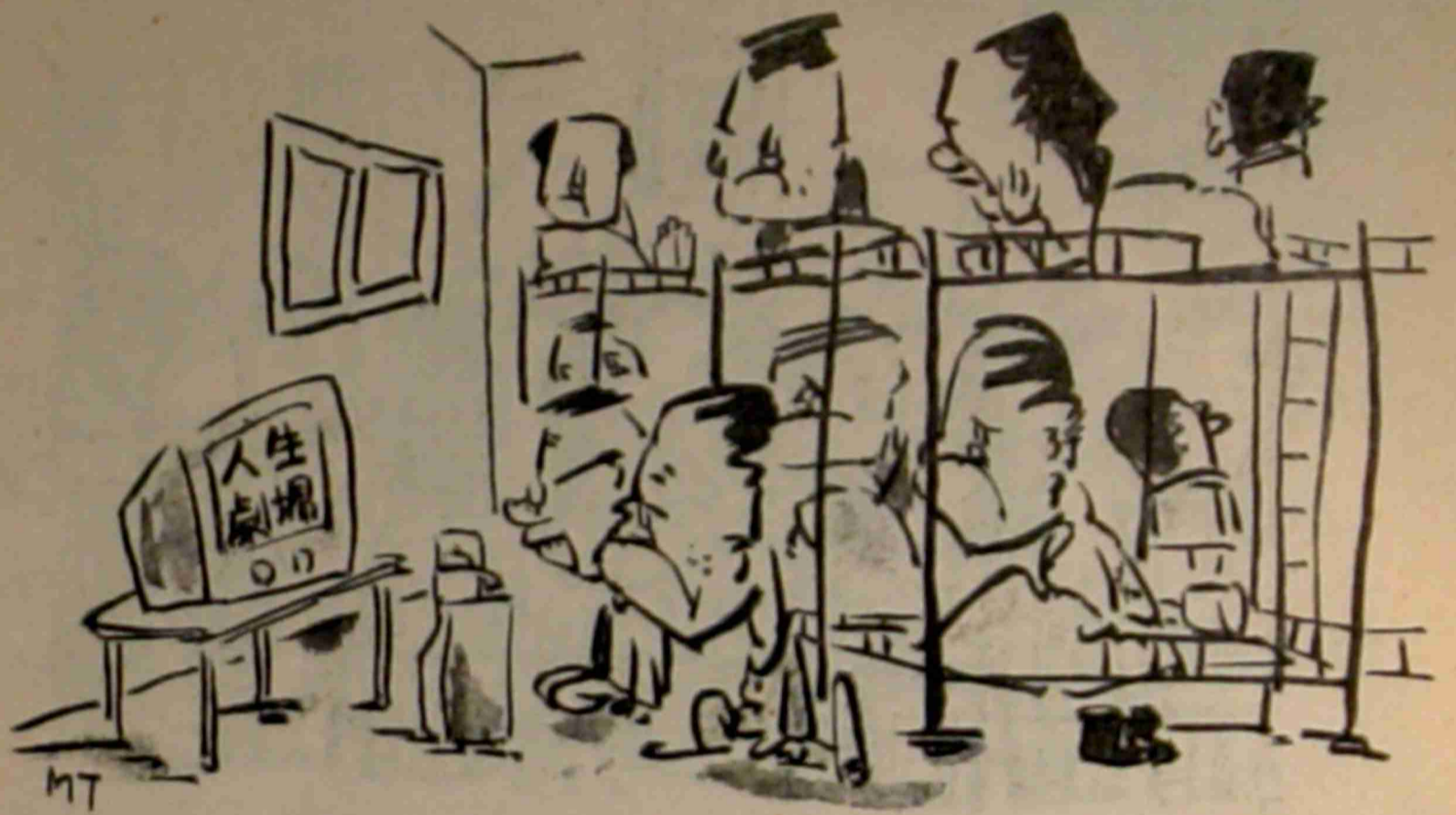
の現金人夫がきていた。わしらの日当より八〇〇円ぐらい高かった。このときはじめて釜ヶ崎の労働者と一緒に仕事をした。「おれは世帯持でアパート暮しだ」と言っていた。夜中の一二時になると飯より大切なことがあった。一時間の休憩間を利用して大一パチンコ店の裏に行くと、女店員の入浴風景がのぞけることである。バラックのためすき間もふし穴もあり、気の毒なくらいよくのぞけた。男の店員が「のぞくな」と怒ってくることもあった。しまいにはベニヤ板でかこってしまった。男の店員は前からのぞいていた。

この「ぶらり」はあらずじがない。思い出したことを書いているために話が次から次へと変る。

わしが新世界にはじめて行ったときはストリップもあり、早く行くと中でエロ写真も売っていた。三枚三〇〇円であった。ジャンジャン横丁のぜんざいは三〇円であった。ミキサーを何台もならべて

ると宿屋が多いところに来た。観光地にしては宿屋が貧弱すぎるのも思った。これが最初に釜ヶ崎を見た感じである。そのときはすぐ天王寺駅に引き返した。ついでに書けば当時の大阪はパチンコ店の前にやくざ風の男が数人立ち客引をしていた。「兄さんいらっしやい」と腕をつかまれびっくりした。つかむまではよいが引っ張ると違法になると後で知った。市電は片道一三円なり。

手配師は全国どこにでもいることは言うまでもない。高知の手配師から大阪の杉本町の飯場にきたことがある。日当は八〇〇円で飯代二〇〇円引であった。現場は奥村組の天王寺駅建設工事で、今の天王寺ステーションビルである。いまの大一パチンコ店の横の国鉄高架工事もしていて、わしは主にそこに回され夜勤が多かった。大一パチンコ店といっても今のように立派な建物でなく、当時は民家を改造したようなバラック建であった。夜の高架工事は人夫がたらんときは地元



年内無料宿泊所内 (南港)

売っているジュース屋の開店はいつであ
ったか。その日は味見のために無料での
ましていた。わしはその前を何度も往復
して五はいぐらいのんだ。ストリップ小
屋の表に「男入用」と書いた札がぶらさ
がっていた。雨が続いて仕事がないとき
に雇ってもらうつもりでいたことがある。
客席のそうじでもしながらストリップは
タダで見られる。その上に日当がもらえ
るとのんきに考えていたが、そうは問屋
がおろさなかつた。その頃舞台の横に素
人楽団が三人ぐらいいいたがその仕事であ
った。ギターかドラムか何か使えないと
ダメであった。小屋の裏で長火鉢の前に
座って長いきせるで「きざみ」を吸うて
いた女親分か支配人風が「お帰りなさい」
とあっさり断わられた。

(地下室)